

子宮頸がん撲滅！！

子宮頸がんは「予防できるがん」
ワクチンと検診でほぼ 100% 予防できます。

「子宮頸がん」とは

子宮頸がんとは子宮頸部（子宮の入口付近）にできるがんです。日本では、1 年間に約 1 万 5 千人の女性が子宮頸がんにかかり、約 3 千 5 百人が亡くなっているといわれています。最近では特に、20 ～ 30 代の若い女性で子宮頸がんの患者さんが急増しています（図 1）。

子宮頸がんの原因は、発がん性ヒト・パピローマウイルス（HPV）の感染が関連していると考えられており、患者さんの 90 % 以上から発がん性 HPV が検出されています。発がん性 HPV は、特別な人だけが感染するのでなく、だれでも感染するありふれたウイルスですが、感染したからといって必ずがんになるわけではなく、子宮頸がんになるのは、感染した人のうち 1 % 未満であると考えられています。

子宮頸がんを予防できるワクチンがあります

発がん性 HPV の中でも HPV 16 型、18 型の 2 種類は、その他の発がん性 HPV に比べて、特に子宮頸がんになりやすく、20 ～ 30 代の子宮頸がん患者さんから高い頻度でみつかっています。子宮頸がん予防ワクチンを接

種することで、この HPV 16 型、18 型の感染をほぼ 100 % 防ぐことができます。

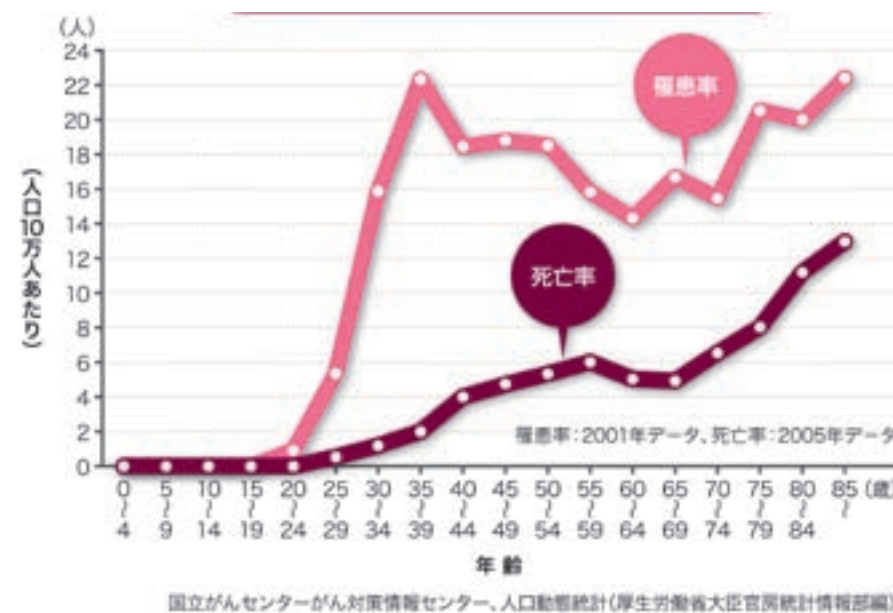
接種対象は 10 歳以上の女性です。性交渉を開始する前の年齢で接種するのが効果的であると考えられますが、発がん性 HPV に感染したとしても多くの場合は免疫により排除されるため、次の感染予防という点から、成

人女性でも接種意義は十分あると考えられます。特に、45 歳までに接種することが推奨されています。

ただし、ワクチンは接種前に感染している発がん性 HPV を排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療したりすることはできません。

図 1

子宮頸がんの罹患率と死亡率（日本人女性）



ワクチン接種スケジュール

HPV 感染予防ワクチンは 6 カ月の間に必ず 3 回の接種が必要です（図 2）。また、費用は各クリニックによって異なりますが、3 ～ 5 万円かかるとされています。

※がん予防対策および少子化対策の一環として、串間市に住所を有する中学生女子の接種費用については、市が全額助成します。

接種後の症状について

ワクチンを接種した後に、注射した部分がはれたり痛んだりすることがあります。このような痛みやはれは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くために起こりますが、通常数日間程度で治ります（表 1）。

※重い副反応として、まれに、アナフィラキシー様症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など）があらわれることがあります。

子宮頸がん検診

ワクチンで、子宮頸がんの原因の多くを占める HPV 16 型と HPV 18 型の感染を防ぐことができますが、このワクチンは、

中学生女子の子宮頸がん予防ワクチン接種費用を全額助成します

全ての発がん性 HPV の感染を防ぐことができるわけではありません。子宮頸がんを完全に防ぐためには、子宮頸がんワクチンの接種だけではなく、定期的な子宮頸がん検診を受けることが大切です。ワクチン接種後も、20 歳を過ぎたら 2 年に 1 度は子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。

がん予防対策および少子化対策の一環として、串間市に住所を有する中学生女子の接種費用については市が全額助成します。

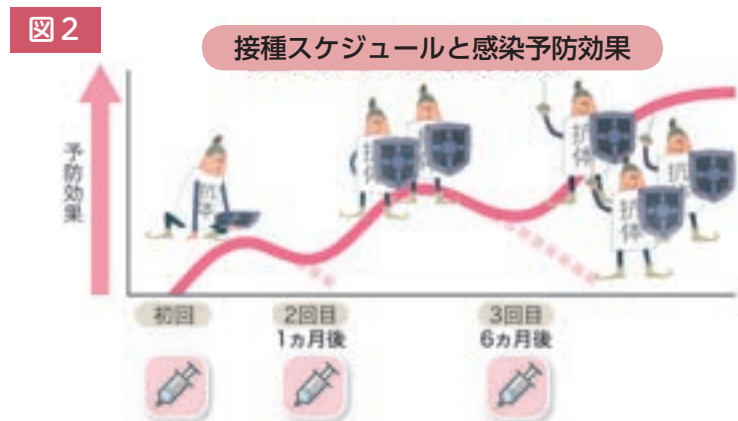
●助成対象者 Ⅱ 接種を希望する方で、串間市に住所を有する中学 1 年生から 3 年生に相当する年齢の方

●実施時期 Ⅱ 平成 22 年 8 月 2 日から実施

●助成期間 Ⅱ 中学 3 年間の間に 3 回の接種を完了してください。中学を卒業、あるいは転出した場合は助成できません

●助成手続き

- (1) 指定医療機関に予約
- ※接種後 30 分程安静にし様子を観察します。時間には余裕を持って予約してください。
- (2) 郵送された「助成申請書」に必要な事項を記載、捺印



●指定医療機関

のだ小児科医院	71 - 1112
中島医院	72 - 5202
とめのファミリークリニック	76 - 1425
串間市民病院	72 - 1234
市木診療所	77 - 0349
産科・婦人科うちむらクリニック	32 - 1230
でざわ小児科	31 - 0330
山見医院	23 - 2101
たなか産婦人科クリニック	23 - 1551
藤浦循環器科内科クリニック	23 - 3188
外山皮膚科	23 - 2377
津曲小児科医院	22 - 2175
きよひで内科クリニック	22 - 5111

表 1	主な副反応
頻度 10% 以上	かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
頻度 1 ～ 10% 未満	発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染
頻度 0.1 ～ 1% 未満	注射部分のピリピリ感／ムズムズ感
頻度不明	失神・血管迷走神経発作（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）
重い副反応として、まれに、アナフィラキシー様症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など）があらわれることがあります。	
図表提供：グラクソ・スミスクライン株式会社	